

平成二十一年度 入学試験問題（前期日程）

看護学部・小論文試験問題

注意事項

- 1 試験開始の合図があるまで、この問題冊子を開いてはいけません。
- 2 問題冊子は一冊です。
- 3 解答はすべて解答用紙に記入しなさい。解答用紙は二枚です。
- 4 この冊子は試験終了後、持ち帰りなさい。

次の文章を読んだ上で、あとの問いに答えなさい。

独りでいられる能力は、精神的態度の変化が必要となったとき、価値のある資質である。環境に大きな変化が起これば、存在の「ていぎ」や意味の根本的な再評価が要求されるであろう。対人関係があらゆる形の悩みに答えてくれると一般に考えられている文化においては、善意の援助者に、④ 孤独には精神的な支援と同等の治療効果があるのだということ^①を納得させることは、時として困難を伴う。

ほとんど誰もが体験する環境の不幸な変化の一つは、肉親、つまり配偶者や子ども、両親、同胞との死別である。研究によってすでに確認済みであるが、肉親との死別と折り合うには時間がかかるという常識的な仮説は正しいし、また、喪の過程がその進行を「さまたげられる」こともある。人間がつらい感情の体験を避けようと願う時、さまざまな防衛手段をとるためである。

これらの防衛手段のいくつかはますます強化され、尊重されている。英国の上流階級や中流階級の人々は、伝統的に、感情をあからさまに表現することに対して「嫌悪感を抱くからである。最愛の妻を亡くした直後であるにもかかわらず、いつもと変わりなく仕事に行き、自分の喪失について何も語らず、たぶん、いつもよりも長い時間働く——このような男性は称賛される「まげいこう」がある。

これは、一つには私たちが「まきんよくしゆぎ」を称賛するからであり、また一つには自分の感情について何も言わない受難者が「まどろりよう」を困惑から救うからである。多くの人は、肉親を奪われた人に対して何と言ったらよいのか分からない。もし、そのような人が、あたかも何事もなかったかのように振る舞えば、彼の友人たちは、彼が同情の言葉は欲しくないのだという結論を下し、彼に感謝するかもしれない。

しかし、⑥ そのような人が示している勇氣を称賛するのは実は、的はずれである。すべての心理療法家の治療経験の中に、空気を出し、自分の喪失を無関心を装うことでやり過ごそうとしていたために、服喪が後回しになり、不完全なままになっている患者がいる。死んだ人の話が心理療法の最中にふと出たとき、喪失が数カ月あるいは数年も前に起こっていても、患者は、ときに抑えがたい深い悲しみを表すものである。

実証的研究によって明らかになったことであるが、配偶者との死別の直後は感情を表さなかった女性が、その後の一ヶ月間、かなりの肉体的、心理的症狀に悩まされる。それはその後長く続き、喪失の後十三カ月経っても、初めの一週間に「人前をばからず大泣きをする」ことのできた女性よりも強い精神障害を示し続けるのである。

多くの文化は、肉親と死別した人間が仕事に行ったり、通常の活動をすることをさまたげること

よって、服喪の期間を設けている。前章で、孵卵期のように、(き)成就するまでには長い期間を必要とする、ある種の心理的過程について言及した。服喪もまた、非常に長期にわたるかもしれない過程の一つの例である。ギリシアの田舎では、肉親を失った女性は五年間喪に服さなければならぬ。この期間には、肉親と死別した女性は黒の服を着て、毎日故人の墓に参り、まず死者と語らうことから始めるのである。しばしば、墓は(シ)擬人化される。すなわち、墓に参るとか、墓の手入れをしに行くとは言わないで、女性は、夫や娘のところへ行ってくるという表現をする。このような定められた儀礼は喪失という現実を強調する効果をもつ。

多くのギリシアの村人は、いわばその土地固有のカタルシス理論を共有している。村人は、苦痛や悲嘆、(シ)悲哀の感情のなかに我を忘れることを望みながらも、喪に服している女性の(シ)きゆうきよくの目標は、これらの感情を繰り返し表現することによってそれらから抜け出すことなのだ、ということを確認している。

「孤独」アンソニー・ストー著、三上晋之助訳、吉野要監修 創元社 二〇〇三年

問一 (ア)から(ユ)のひらがなは漢字に、漢字は読み仮名を答えなさい。

問二 「⑥ そのような人が示している勇氣」とは何か。七〇字以内で答えなさい。

問三 筆者は、肉親の死を受け入れるためには何が必要と言っているか。五〇字以内で答えなさい。

問四 「④ 孤独には精神的な支援と同等の治療効果がある」と書いてあるが、孤独のメリットとデメリットについて、四〇〇字以内であなたの考えを述べなさい。